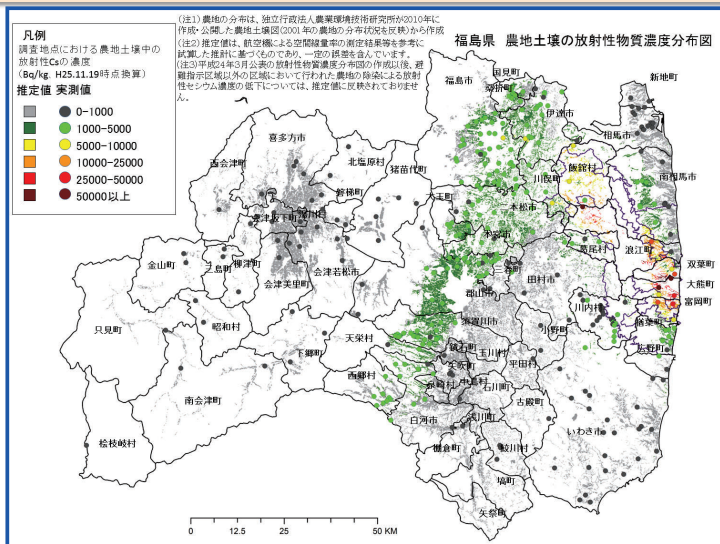


放射性セシウム（福島県）



基準日（平成25年11月19日）を設定して実測値を補正

Bq/kg:ベクレル/キログラム

農林水産省報道発表 平成26年10月17日

福島第一原発事故に伴い、今後の営農に向けた取組を進めるために、福島県内のほ場341か所において農地土壌がどの程度放射性物質に汚染されているか調査が行われました。

環境省が行っている一般の土壌調査では深さ約5cmまでの土壌が採取されていますが、農地の土壌調査では放射性物質が耕起によって攪拌される深さや農作物が根を張る深さなどを考慮して、地表から深さ約15cmまでの土壌が採取されています。結果としては、前回（2013（平成25）年8月公表）の濃度分布図と比較して、避難指示区域外の水田で約17%、避難指示区域外の畑で約20%、牧草地及び樹園地で約15%、放射性セシウムの濃度が低下していることがわかりました。なお、この期間における放射性セシウムの物理的減衰に伴う土壌濃度の低下は約11%です。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

改訂日：2015年3月31日

本情報は2014年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか